

裏路地探険

段々の小さな田がS字を描いて続く
風に揺れる稲の緑が美しく映える
棚田の風景を守る人々が暮らす里



黄金色に実った稲刈り間近の棚田

棚田100選に選ばれた里 村岡町和佐父(わさぶ)

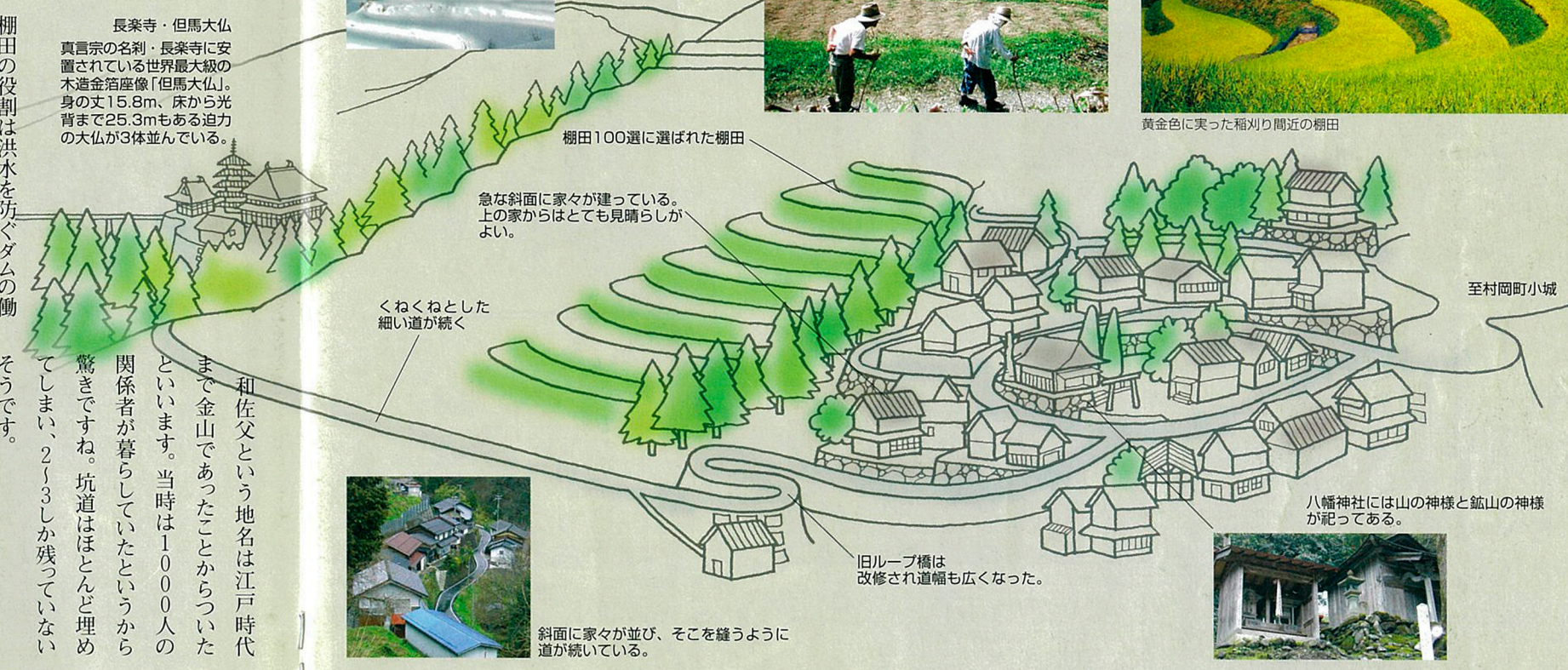
平成11年7月、農林水産省認定「日本の棚田100選」のひとつに村岡町和佐父西ヶ岡の棚田が選ばれました。兵庫県下で選ばれたのは、加美町岩座神、佐用町乙大木谷、美方町うへ山、そして村岡町和佐父の4カ所。

棚田の定義とは山地や丘陵地などの斜面に階段状にひらかれている水田のこと。斜面1/20(20m進んだときに1m上がる斜面)以上の斜面にある水田でないとは選ばれません。全国に13882カ所、901市町村にあるといいますが、棚田面積221067haで、全国の水田面積270万ha(1997年調べ)の8%に当たるとか。

棚田の四季
季節ごとに新しい表情を見せてくれる。7月頃は元気に伸びる稲の緑が美しい。稲刈りは9月頃。



長楽寺・但馬大仏
真言宗の名刹・長楽寺に安置されている世界最大級の木造金箔座像「但馬大仏」。身の丈15.8m、床から光背まで25.3mもある迫力の大仏が3体並んでいる。



棚田100選に選ばれた棚田

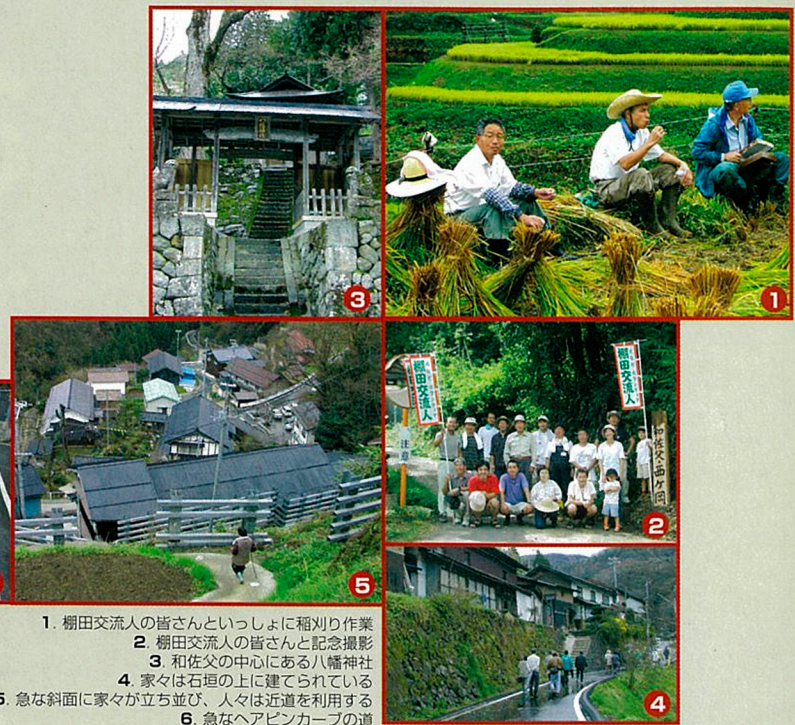
急な斜面に家々が建っている。上の家からはとても見晴らしがよい。

くねくねとした細い道が続く

旧ループ橋は改修され道幅も広くなった。

斜面に家々が並び、そこを縫うように道が続いている。

八幡神社には山の神様と鉱山の神様が祀ってある。



1. 棚田交流人の皆さんといっしょに稲刈り作業
2. 棚田交流人の皆さんと記念撮影
3. 和佐父の中心にある八幡神社
4. 家々は石垣の上に建てられている
5. 急な斜面に家々が立ち並び、人々は近道を利用する
6. 急なヘアピンカーブの道

●裏路地探険隊員募集
7月5日(土) 日高町神鍋高原
*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。



案内をしていただいた区長・森价紀さん
棚田交流人のお世話などもされている

棚田の役割は洪水を防ぐダムのお働きや地すべりを防ぐ働きなど、さまざまな役割を持っています。村岡町和佐父の棚田の開拓は古く、資料によると平安時代から始まったのではないかといわれ、本格的には室町時代に開発されたと伝えられています。現在では、128枚の棚田があり、それぞれ個人所有の田んぼとして稲作が中心におこなわれています。しかし、高齢化が進み、農業を続けていくのがなかなか難しい状況になってきています。田んぼは1年遊ばせるとダメになる。年ごとに田んぼが荒れていくのを見るのはつらい」と棚田を守り続ける人たちは悩んでいます。そこでどうにかしたいと、平成13年から棚田交流人を募り、ボランティアで農作業を手伝ってもらっています。あぜの草刈りや田植え、稲刈りなど都会の人々には珍しく喜ばれています。

また、34、5年前につくられ、当時期的な橋として有名だったループ橋は、5年前に道幅を1mほど広げ橋ではなくになりました。急斜面を登る道は技術を要する工事です。冬になると坂道が凍って危ないので、水が出るようになり安全が確保されています。

等高線上に美しく湾曲した和佐父の棚田。昔の人々が苦勞しながら石を運び、つくり上げた風景は人々を感動させます。多くの写真家も訪れる絶好のシャッターポイント。山の田んぼは水もきれいで、空気もきれい、また朝晩の温度差と風通しの良さによりおいしい米を育んでいます。棚田とともに暮らす里には、棚田を愛する人々が集います。村岡町では棚田ボランティアや棚田オーナーなどを募集しています。おいしい空気を深呼吸しに、棚田へいらっしやいませんか？